

本市における小中一貫教育の推進について

1 これまでの小中一貫・連携教育の取組

- ・ 小中一貫・連携教育基本方針(H25)を策定
- ・ 各種交流活動による小中連携教育は定着

(例) 中学校の授業体験、小中合同の挨拶運動、生徒指導スタイルの統一
教職員の情報交換、研修など



北九州市小中一貫・連携教育
基本方針改訂(R3. 8月)

2 本市の小中一貫教育の方向性

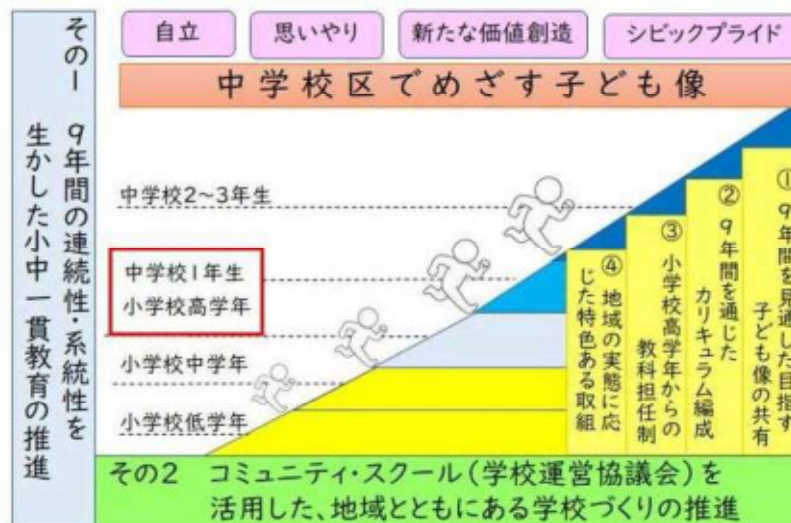
① 9年間の連続性・系統性を生かした小中一貫教育の推進

- ・ **校区で9年間を見通しためざす子ども像や目標を設定**する。
- ・ **小中9年間を通じたカリキュラムを編成**する。

② コミュニティ・スクールを活用した、地域とともにある学校づくりの推進

- ・ コミュニティ・スクール(学校運営協議会)と小中学校が、目指す子ども像等の目標やビジョンを共有し、**地域とともにある学校づくりを推進**する。

小中一貫教育の方向性【イメージ図】



3 本市の小中一貫教育の具体的な取組 ～小中一貫教育モデル校を例に～

	【施設併設型】中央中学校区	【施設分離型】尾倉中学校区
【令和3年】 実態の把握	1 9年間を見通した目指す子ども像の設定	
【令和4年 4月】 小中一貫 教育の組織 づくり	<p>① 地域や学校の実態を把握 年度末の学校運営協議会で、目指す子ども像や課題について共有し、次年度の学校運営方針に反映する。</p> <p>② 組織体制づくり</p> <p>③ 中学校区で、目指す子ども像と目標について協議</p>	
【5月】 9年間を 見通して 目指す 子ども像と 具体的目標 の設定	<p>学校運営協議会の様子</p> 	<p>指導計画書やスクールプランに位置付け</p> 
【6月】 具体的な取 組に対する 熟議・情報 の共有	<p>学校運営協議会を開催し、目指す子ども像を地域と共有する。小中一貫推進委員会を立ち上げ、目指す子ども像実現のための手だてについて協議する。</p> <p>例) 夢や目標をもって、地域を愛し、地域社会に貢献できる児童生徒(尾倉中学校区)</p> <p>例) 家庭や地域と連携し合い、豊かな人間性とたくましい体を持ち、自ら学び考える子どもの育成(中央中学校区)</p>	
【6月～ 2月】 9年間を 見通した 取組の実施	<p>④ 情報共有 ⑤ 取組の実施</p> <p>2 9年間を見通したカリキュラムの作成と教育活動の実施</p> <p>A 乗り入れ授業 (中央中学校) B 小中合同の体力測定 挨拶運動 (中央中学校、尾倉中学校) C 学校の特色に応じた取組 小中一貫教育の研修(尾倉中学校)</p> 	
【年度末】 振り返り 分析	<p>D 各学校でのカリキュラムマネジメントの実施(防災教育カリキュラム例)</p> <p>各校での具体的なカリキュラム作成</p> <p>【中央中学校区】 総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムの作成</p> <p>【尾倉中学校区】 英語科を中心としたカリキュラムの作成</p>	
【令和5年 4月～】	<p>⑥ 次年度にむけた構想</p> <p>3 9年間を見通したカリキュラムの拡充と実施</p> <p>○ 北九州市スタンダードカリキュラム等を活用し、全教科等で小中9年間のカリキュラム編成を行い、実施する。 ※ (4-3-2)の学年区分で各期における目指す姿を設定</p> <p>○ 学校運営協議会や地域協働活動本部を活用し、地域の特色を生かした教育活動を推進する。</p>	

※ 現在、各学校で順次、具体的なカリキュラムを作成し、実施している。